



■	目次	説教 あなたに欠けているもの …… 藤塚 聖 …… 1
		教会の課題 過去への回復よりも未来の新しいかたちへ -北海道中会- …… 秋本 英彦 …… 2
■		旧約聖書に聴く 現代に何を語るか ダニエル書 (12) …… 古賀 清敬 …… 3
		天皇の代替りについて考える(4) 「天皇教」の復活を許してはならない …… 芳賀 繁浩 …… 4
		教会、この地とともに② 住吉教会 振り返れば恵み …… 河波 和子 …… 5
		三浦綾子の生涯と作品について (11) 愛の証しの文学『母』～泣いてくださる方に出会う旅 …… 森下 辰衛 …… 6
		こいのにあ 第2回全国青年の集い報告 …… 秋本 英彦 …… 7
		第2回全国青年の集いに参加して …… 島津 真珠 …… 7
		教会ニュース …… 8



あなたに欠けているもの

あなたに欠けているものがまだ一つある。持っている物をすべて売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。(ルカによる福音書18章22節)

ふじ づか ひじり
藤 塚 聖

イエスと議員のやりとりを読んで、私たちはどんな感想をもつでしょうか。私はこの大金持ちにとって、イエスの言葉は衝撃的だったと思います。沢山の財産がある人ほど、それを手放すのは難しいからです。彼は子供の頃から律法を忠実に守りながらも、永遠の命については確信が持てなかったようです。それをどのようなものと考えていたのか分かりませんが、今ある財産の上に更に加わる一つの資産か、贅沢な今の生活をこの先も永遠に続けられる手段と考えたのでしょうか。

いずれにしても、彼はイエスから全財産を人に施せと言われたとき、即座に無理だと諦めました。永遠の命を自分から求めておきながら、結局は持っている財産の方が大事だったわけです。金持ちが神の国に入るのは難しいとイエスが言う通りでした(24節)。人がもつ執着心や物欲が凄いものであることを思い知らされます。

ロシアの作家ソルジェニーツィンは、ソ連の社会主義を厳しく批判しながら資本主義にも警鐘を鳴らしました。資本主義社会では際限なく欲望を満たす人間が現れる、その人間は経済的に破たんする前に人として倫理的に破たんする、人間というのは取り入れるだけでなく、同時に捨てるということが、それが人間の命の営みだと。

私たちはそれ程貪欲でなくても、何かを失うことをひどく恐れます。あたかもそれが決定的なことでもあるかのように、失っては悲しみ、無くしては落ち込むのです。しかし意外にも聖書では捨てることや失うことの中に、神の恵みがあることが示されています。アブラハムは息子イサクを放棄することを

神に命じられ、パウロは古い自分を捨てることで自由になりました。

それと同じように、イエスは「神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子供を捨てた者はだれでも…永遠の命を受ける」(29-30節)と言っています。ということは、捨てるべきものは特定の何かというより、私たちが執着するもの、絶対に手放せないもの、それなしには生きられないものであって、それが永遠の命や神の国を遠ざけていると教えているのでしょうか。それなら私たちが執着しているものは何でしょうか。自分の健康に人一倍こだわる人、家族が命だと言う人、自分の信仰や信念に命をかける人、もしそうならイエスはそれを手放せと言うかもしれません。

ある説教のエピソードですが、ある神父が若い頃事故で意識不明になり、生死をさまよう中、幾度も夢を見たそうです。崖の木の根に必死につかまり、手を離したら落ちて死ぬというものでした。それなのに手を離せという声が上から何度も聞こえ、死にたくないので必死にしがみつきました。何度目かにととう降参して手を離したら、そこから劇的に回復して献身するきっかけになったというものです。

私たちが絶対に手放せないと思っていても、これなしにはどうも生きられないと思っていても、それが本当にそうなのか。むしろその執着そのものが、その人自身を縛って、本当の命なり生き方を歪めて、永遠の命や神の国を遠ざけているのではないかと思います。その執着から解放されるとき、もっと豊かな世界に目が開かれるのかもしれませんが。

(古河伝道所・下館伝道所牧師)